“農村の第一線でご活躍されている皆様のための”

第62回 農村医学夏季大学講座

地域医療をともにつくる

～医師の働き方改革と持続可能な医療をみんなで考える～

2023 7/21（金）―22（土）
JA長野厚生連佐久総合病院
農村保健教育ホール
※ZOOM同時配信

第75回佐久総合病院祭研修医劇　来場者と一緒に農民体操する様子

開催要領

①佐久総合病院教育ホールで受講希望の方

所定の申込用紙（コピーでも可）にご記入いただき、送付願います。
FAX でお申込みされた方は、必ず電話にてご確認ください。また、メールでお申込みされる方は、佐久総合病院のホームページ (http://sakuhp.or.jp/ja/) をご覧ください。

- 受　講　料・・・一般　　3,000 円（テキスト代・税込）　※1 日のみの受講は 1,500 円
  高校生以下 1,000 円（テキスト代・税込）　※1 日のみの受講は 500 円
- お弁当代・・・昼食（22 日のみ希望者）1,200 円（税込）
- 定　　員・・・200 名
  新型コロナウイルスの感染状況により、無観客での開催とさせていただく場合もございます。
  その場合は、事前にご連絡させていただきます。
- 支払方法・・・当日精算のみとさせていただきます。来場いただいた際に受付で精算をお願いいたします。

※会場内ではマスクの着用をお願いします。※体調の悪い方は参加をご遠慮ください。

②ZOOM を使用して受講希望の方

以下の QR コード、または佐久総合病院のホームページ（http://sakuhp.or.jp/ja/）にアクセスいただき、お申込みフォームから登録・決済をお願いいたします。
お申込みには、everevo(イベレボ) への会員登録 (無料) が必要です。

- 受講料・・・　一般　3,000 円（テキスト代・税込）※1 日のみの受講は 1,500 円
  ※別途事務手数料が発生いたします。
  ※１人単位でのお申込みと受講をお願いいたします。
  ※ZOOM ID を第 3 者へ譲渡・販売・公開する行為は禁止いたします。
  ※ZOOM で参加される場合、高校生以下の料金設定はありません。
- 支払方法・・　お申込みフォームの支払い方法に従い、お支払いをお願いいたします。
  決済完了後、ZOOM ID とパスワードが、ご登録いただいたメールアドレスに配信されます。
  支払い方法は、クレジットカード決済・コンビニ決済・銀行振込が選択できます。
  ※受講料の払い戻しは原則いたしませんので、ご了承ください。
- 申込締切日・・　7 月 14 日 (金)

開催場所ご案内

- 北陸新幹線「佐久平駅」から車で20分
- JR小海線「臼田駅」から徒歩で10分
- 上信越自動車道・佐久ICから車で25分
- 中部横断自動車道・佐久臼田ICから車で5分

お申込み方法・お問い合わせ・連絡先

◆所定の申込書または佐久総合病院のホームページからお申込みください（コピーでも可）。
◆受講票、領収書は事前に発行いたしません。
受講当日、会場受付にてお渡しいたします。
◆お申込み・お問い合わせ先：佐久総合病院 第62回農村医学夏季大学講座事務局

事務局
第62回農村医学夏季大学講座事務局
長野県佐久市臼田197　佐久総合病院内
（直通）TEL 0267-82-2677
FAX 0267-82-7034
http://www.sakuhp.or.jp/

■主催：JA長野厚生連/JA長野県組合長会/JA長野中央会/JA長野信連/JA全農長野/JA共済連長野/JA長野健保
■後援：JA全厚連/日本農村医学会/日本成人病予防会/日本農村医学研究会/長野県/信濃毎日新聞社/SBC信越放送/NBS長野放送
TSBテレビ信州/abn長野朝日放送/NHK長野放送局/佐久医師会/佐久市/小海町/佐久穂町/川上村/南牧村/南相木村/北相木村

長野県厚生農業協同組合連合会
代表理事理事長
洞　和彦

今年「農村医学夏季大学講座」は 62 回目を迎え、一昨年から新型コロナウイルス感染防止策を講じる中で開催してまいりました。これまで時代に即した社会的な課題を焦点としたテーマを取り上げ、受講者の皆様との討議の中から提言をいただき、課題解決に向け真摯に取り組んでまいりました。

今年のメインテーマは昨年に引き続き「地域医療をともにつくる」とし、サブテーマを“医師の働き方改革と持続可能な医療をみんなで考える”といたしました。「医師の働き方改革」に伴う医師の労働規制が目前に迫る中、現在、医療現場を中心として取り組んでいる状況ですが、医師の確保や質の担保、地域の医療体制の見直しなどさまざまな課題を抱えているのが現状です。

こうした中、今回はさまざまな立場の講師をお招きし現状の取り組み状況や、地域の救急を含めた医療提供体制、患者さんや地域の皆様の理解等、弊会の使命である地域の医療を守り、「医療」という社会的共通資本をいかに持続可能にしていくかという課題解決に向け、シンポジウムも開催する中で議論を深めたいと考えております。
信州の盛夏にふさわしい熱い議論ができますことを期待するとともに、開催にあたり、第一線でご活躍の講師の皆様並びにご支援を賜りました各関係団体等の皆様に厚く御礼を申し上げます。

佐久総合病院
統括院長
渡辺　仁

コロナ禍も 4 年目に入りました。まだ感染が終息した訳ではありませんが、新型コロナウイルス感染症が 5 月 8 日より感染法上 5 類に移行となり、世の中は感染前の状態に戻りつつあります。第 62 回農村医学夏季大学講座も、今までの制限を緩和しつつより多くの方が参加できるように、ハイブリッド方式で今年も開催することにしました。

今年のサブテーマは“医師の働き方改革と持続可能な医療をみんなで考える”といたしましたが、2024 年 4 月から始まる医師の働き方改革によって、地域の医療、特に夜間救急医療体制に多くの課題が生じることが予想されます。シンポジウムでは、様々な立場からご登壇いただくシンポジストと受講生の間で、夏季大学開講当初より行ってきた熱い討論が展開されることを期待しております。

また、今年の若月賞は 3 名の方が受賞されます。3 名の受賞者は、若月賞顕彰の理念である、それぞれの地域・分野において自らの信念と理想に従って活動されており、若月賞にふさわしい方々です。限られた講演時間ではありますが、素晴らしいご講演を堪能していただけると思います。

地球温暖化とはいえ朝晩涼しく過ごしやすい佐久の夏、皆様とお会いできることを楽しみにしております。

第62回 農村医学夏季大学講座プログラム

1日目　7月21日(金) 11:30～

時　刻	テーマ	講　師
11:30	受　付	
12:30	開講式	
12:45～13:30	若月賞授賞式	
13:30～14:40	［若月賞受賞講演］ **生活困窮者支援の現場から** 私は1994年から東京・新宿を中心とする路上生活者支援活動に関わり、2000年代以降は幅広い生活困窮者の相談支援に取り組んできました。近年は「住まいは基本的人権」を理念とする「ハウジングファースト」型の住宅支援を軸に据えてきましたが、コロナ禍が始まってからは若年層や外国人への緊急支援にも力を入れています。生活困窮者を支援してきた過去30年の取り組みから、現代日本における貧困と社会的排除の問題についてお話をさせていただきます。	一般社団法人 つくろい東京ファンド 代表理事 稲葉（いなば）　剛（つよし）氏
14:40～15:00	休　憩	
15:00～16:10	［若月賞受賞講演］ **これからの精神医療保健福祉のあり方について思うこと** **～愛媛県愛南町における精神科医療の構造変革に取り組んで～** １９９６年、精神科医師3年目で愛南町（旧御荘町）にお世話になりはじめました。先輩方が長年かけて築いてきた住民ネットワーク活動に参画させていただき、地域内外の多くの先達と会う機会を得ていく中で、あまりにお粗末な精神医療保健福祉の構造に気づかされました。「自分が精神疾患を患ったらどうだろう」という、ある意味直感にも基づきつつ、多くの仲間と地域づくりと構造変革に取り組んできました。産業への取り組み、精神科病床の閉鎖などを経て、新たな風景が拡がり続けています。まだまだ道半ばであることを実感していますが、現時点で思うことをお話させていただく機会をいただき感謝しています。	公益財団法人正光会御荘診療所 特定非営利活動法人ハート inハートなんぐん市場 長野（ながの）　敏宏（としひろ）氏
16:10～16:30	休　憩	
16:30～17:40	［講　演］ **働き方改革と今後の医療提供体制** 日本の医療は、2040年を見据え、コロナ禍の経験を踏まえたその在り方が問われている。多死社会において、慣れ親しんだ地域で、豊かな最期を迎えるための取組が期待される中、2024年4月、実質的な医師の働き方改革がスタートし、これまで以上に効率的な医療提供体制が求められている。5年ぶりの人口動態推計が公表され、さらなる労働人口の減少が予測される中、人の尊厳を守るこれからの医療と介護について学び合いたい。	厚生労働省保険局医療課 課長補佐 加藤（かとう）　琢真（たくま）氏

メインテーマ
地域医療をともにつくる ～医師の働き方改革と持続可能な医療をみんなで考える～

2日目　7月22日(土) 8:30～

時　刻	テーマ	講　師
8:30	受　付	
9:00～10:10	［若月賞受賞講演］ **私が頂いたこと、見たこと、これからすること** 「繋がる」と「繋げる」これが私のキーワード。弾圧の中、命を懸けて闘う人々が世界中にいる。水俣との出会いが私を救った。「正義は日の目を見る」と次世代に行動で示すことが、自分の世代の責任。水俣は公衆衛生の怠りの累積、原発も差別の蓄積。今こそ水俣病問題に正面から向き合うことが急務。次世代の為にならない原発の幕を閉じることも急務。頑なな世の中に希望の風が吹くように、皆と繋がり、繋げ、頑張りたい。	環境NGO グリーン・アクション 代表 アイリーン 美緒子（みおこ）スミス 氏
10:10～10:30	休　憩	
10:30～11:40	［講演］ **患者の理解が不可欠な医師の働き方改革とチーム医療** 医師の働き方改革の実現には、患者側の理解が欠かせません。一人主治医制からチーム主治医制の必要性を患者側も理解すること。また、病状や治療の説明を受ける際、「家族が病気で医師から説明を受けるので、昼間少し仕事を抜けさせてください」と職場で言えて、それが「当たり前」だと受け入れる社会にしていくことが不可欠です。また労働時間の短縮だけが目的ではなく、「いかに多様な働き方を認めるか」だと考えます。	認定NPO法人ささえあい 医療人権センターCOML 理事長 山口（やまぐち）　育子（いくこ）氏
11:40～13:00	昼　食	
13:00～15:00	［シンポジウム］ **地域医療をともにつくる** **～医師の働き方改革と持続可能な医療をみんなで考える～**	厚生労働省保険局医療課 課長補佐 加藤（かとう）　琢真（たくま）氏 佐久総合病院 副院長兼診療部長 鄭（てい）　真徳（まさのり） 佐久広域連合長 柳田（やなぎだ）　清二（せいじ）氏 認定NPO法人ささえあい 医療人権センターCOML 理事長 山口（やまぐち）　育子（いくこ）氏 司会 佐久総合病院小海分院 院長 由井（ゆい）　和也（かずや）
15:00～15:30	閉講式	